

## 名古屋大学 OJL プロジェクトへの参加報告

橋口 稔

Minoru HASHIGUCHI

九州産業大学 情報科学部 情報科学科

Department of Information Science, Faculty of Information Science, Kyushu Sangyo University  
k13g.jk04@st.kyusan-u.ac.jp

私は昨年度より、名古屋大学（以下、名大）の OJL (On the Job Learning) へ約一年間参加させて頂きました。OJL とは、enPiT という文部科学省の教育事業の一部で、組込みシステム分野の技術者育成を目的とした、全国から学生と企業が集う実践的産学連携教育です。enPiT には組込みシステム以外にもクラウドコンピューティング、セキュリティ、ビジネスアプリケーションの計4分野があり、それぞれの連携大学による独自の教育プログラムが実施されています。

OJL プロジェクトでは、テーマごとに PM(名大教員)と企業の技術者、そして参加学生で構成されています。技術指導だけではなく、文章の書き方やスケジュール管理等、社会人に必要なノウハウを、PM の企業での経験を基に丁寧に指導して頂けます。基本コース(大学院1年次向け)では8月のキックオフ合宿で組込みシステムの基礎を学び、3月の成果発表に向けてスケジュールを管理しながら進めていきます。発展コース(大学院2年次向け)は、基本コースでの成果を更に発展させ、9月の成果発表に向けて同様に進めていきます。

私が参加して一番大変だと感じたのは、時間の管理です。大学院では自身の講義以外にも、学部の講義のアシスタントや学会発表、就職活動ととても多忙になります。それに加え OJL では毎週の成果・進捗状況を週報(Word 文書)として提出し、PM との週例ミーティング(遠方の学生は TV 会議)で週報や仕様書の内容や書き方、リスケジュールに関して指導を仰ぎます。そして月に一回、企業の技術者を交えた月例ミーティングで、進捗の報告や相談を行い、意見や助言を頂きます。開発を進めながら、これらの資料を用意するには、後からするのではなく、その場その場で資料化する癖をつけなければ、

時間がいくらあっても足りません。無理なスケジュールを実行すると、身体を壊したり、モチベーションの低下につながったりします(経験談)。

逆に良かったと思うのは、上述の苦勞したことは就職後に必ず経験することであり、それが学生のうちに経験出来たということです。ある程度失敗しても許されるのが学生の特権なので、この経験が必ず自分の糧となると信じて意欲的に取り組むことができました。次に、就職活動にも活かせることです。OJL 合宿でも就活対策が実施され、エントリーシートの添削をしてくださる PM もいます。私も面接で OJL での経験談を話すことができ、見事内定を勝ち取ることが出来ました。そして何より他大学の学生と交流を持つことができ、多くの友人ができたことです。成果報告会終了後に皆と美味しい酒を飲むことも一つのモチベーションでしたし、修了旅行も計画中で、皆勤務地が近いこともあり、就職後の楽しみも増えました。

OJL での成果は、学会発表や修士論文へ用いることも可能なので、OJL を進めながら別に自身の研究をやらなければいけない、といったことはありません。また、私は OJL 基本コースへの参加が本学大学院の修了要件内の2単位分として認められました(発展コース分が認められなかったのが残念ですが)。組込みシステムに興味のある方はもちろん、大学院進学後に何をするか決まっていなくても検討してみてもいいのではないでしょうか。とても大変な一年でしたが、それ以上に得るものがあったと確信しています。皆さんのこれからの学生生活・社会生活がより充実したものになるように、心より願っています。